

差出人: 佐藤敦士 <atsushi@pref.iwate.jp>

件名: 【教振メルマガ】「みんなで教振！」通信 第47号

日付: 2011年6月28日(火) 10:39

宛先: undisclosed-recipients;

<お詫び>

「岩手教育情報交流ネット」に不具合が生じているため、県内小中学校並びに指導主事あての配信は回線回復後となりますこと、お詫び申し上げます。

第47号 2011.06.28.

教育振興運動メールマガジン

「みんなで教振！」通信 ～ 今こそ“地域の底力”で立ち上がろう ～

< 目 次 >

- 1 【教育振興】花を植える人
- 2 【教振は今】教ちゃん、振ちゃん見聞録
- 3 【編集後記】あつしのひとりごと

1 【教育振興】花を植える人

「木を植えた男」(著;ジャン・ジオノ 訳;寺岡 襄)(単行本名「木を植えた人」訳;原みち子)という絵本を知っていますか。アルプスの荒れ果てた高原に住む老人が、たった一人で種を植え、木を育て続け、30年の時をかけて泉がわく森を作り、人が住む地域に変えていったという物語です。

この物語の老人は、見返りを求めることもなく、黙々と種を植え続けたのでした。この物語のように、津波で流され、荒れ果てた河川敷一面に「菜の花を咲かせよう」とそこを耕し続ける老人が大槌町にいます。

金山文造さん(62歳)は、「川が泣いている」、「黄色は幸せの色。多くの犠牲者の供養になる」と3万3000平方メートルもの広大な河川敷を菜の花畑に変えようと、たった一人で耕しはじめました。荒廃した土地は、1日20平方メートルを耕するのが精一杯ですが、「何かやらなければ、前に進まない」とツルハシを振り下ろします。

6月になると、一緒に耕す人が集まりはじめ、いつしか「菜の花プロジェクト」と呼ばれるようになりました。金山さんは、「町の人が希望を失いかけている。菜の花は小さな花だけど、そのひとつひとつに希望を灯したい。秋には種を植え、来年の春には何とか咲かせたい」と今日も黙々と耕しています。

花を育てると心が癒されます。津波により単色の景色、土色の街に変わってしまった故郷に花を咲かせて色を添えていきましょう。育てる人の思いが見る人にも伝わり、優しい気持ちが広がっていくことと思います。

避難所ごとに、仮設住宅団地ごとに大人と子どもが一緒になって花を育てる。それも「教育振興運動」ではないでしょうか。一緒に取り組むことで新しく集

まった仮設住宅の方々の心がひとつになり、連帯感も高まっていくと思います。単行本「木を植えた人」の訳者の解説には、こう記されています。

「ほんとうに世を変えるのは、権力や富ではなく、また、数と力を頼む行動や声高な主張でもなく、静かな持続する意志に支えられた、力まず、目立たず、おのれを頼まず、即効を求めず、ねばり強く、無私な行為です。」

2 【教振は今】教ちゃん、振ちゃん見聞録

(教ちゃん) ねえ。振ちゃん。「絵本カー」って知ってる？

(振ちゃん) ミニカーの仲間かな。それとも、新しいアニメ？

(教ちゃん) 「3・11絵本プロジェクト」という復興支援の団体が被災地の子どもたちに絵本をプレゼントしている車のことよ。

(振ちゃん) へえ〜。絵本をもらえるんだ。

(教ちゃん) そうなのよ。「3・11絵本プロジェクト」は、これまでも小学校や幼稚園、保育園、避難所といった施設に絵本を寄贈する取組をしてきたのだけど、絵本のプレゼントも始めたの。それに、移動図書館車として使えるようにと「絵本カー」そのものが大槌町に寄贈されたのよ。

(振ちゃん) それは、すごいや。

(教ちゃん) 滝沢村では村の移動図書館車を山田町や大槌町まで運転して、震災後ずっと本の貸し出しをおこなってきているの。他にも、被災した市町村に移動図書館車を巡回させる動きが始まっているのよ。

(振ちゃん) 滝沢村って、すごいね。

(教ちゃん) 陸前高田市にも、滋賀県東近江市から移動図書館車が寄贈されて、7月下旬の巡回に向けて準備が進められているのよ。

(振ちゃん) 図書館は被災しているし、地域の皆さんの移動も不自由だから、図書館が避難所や仮設住宅まで来てくれたら助かるよね。

(教ちゃん) 子どもたちが絵本を手にするのみならず、大人の皆さんにも本が届く環境が整ってきたわ。

(振ちゃん) 当たり前環境を取り戻せるように、みんな頑張っているんだね。

3 【編集後記】あつしのひとりごと

45号・46号では、避難所の生活の中で子どもたちの学習環境を整えたり、子どもたちに勉強を教えたりする大人の取組を紹介してきました。これからは、仮設住宅への転居が進んでいきます。生活の場が「避難所」から「仮設住宅」へ変わるので、その対応も新たな展開が求められると思います。

宮城県名取市閑上（ゆりあげ）地区の仮設住宅にあるプレハブ集会所では週に1回「寺子屋 閑上」が開かれ、子どもたちが宿題に取り組んでいます。元教員・元塾講師の方が周辺の仮設住宅に声をかけたところ、約50名の小中学生が集まりました。

「子どもたちが生き生きとしていた。やはり子どもだけの場が必要なんだ。地域の将来を担う子どもが、心から笑顔になれる場をさらに増やしたい」この寺子屋がその出発点となればと願っているとのこと。

仮設住宅のプレハブ集会所を、昼間は高齢者の居場所や大人の語らいの場に、夕方からは子どもたちが集まって遊んだり勉強をしたりする場に、夜は自治活動について話し合う場や中高校生が受験勉強をする場にするなど、有効に活用することで仮設住宅のコミュニティが作られていくことでしょう。

そのプレハブ集会所の運営にあたる人を「緊急雇用創出事業」で雇用すれば、被災地における児童生徒の安心をサポートする居場所にもなり、家庭学習のサポートにもなるのではないのでしょうか。

⇒ 第48号は、7月12日（火）配信です。

★メルマガの感想や日頃思っていること、意見・要望をお寄せください。

⇒ 21kyoushin@gmail.com

★バックナンバー（第1～46号）はこちら。

⇒ http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/indexk_bn.html

★全県共通課題（家庭学習と読書推進）の実践事例はこちら。

⇒ http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/indexk_zj.html

★メルマガで紹介しました資料はこちら。

⇒ http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/indexk_s.html

～～～配信元～～～

*岩手県教育委員会事務局 生涯学習文化課

*発行人：教育振興運動担当 佐藤敦士（さとう あつし）

転送はご自由です。どんどん転送してください。口コミは、あなたから始まります。「みんなでやろう！」という雰囲気をあなたから作りだしてください。

～～～